

マンツーマンコミッショナー研修会文書

鳥取県コミッショナー

旗のあげ方の注意

- ① すべての事象に対して旗は黄色からおおよそ5秒（目安）で赤旗へとする
- ② 繰り返されている事象（改善の意思が見られない時）の場合は**黄色時間を短くし、赤旗をあげる**
- ③ 意識して行われる事象、悪質な行為に対しても、**黄色時間を短くし、赤旗を上げる。**
（残り時間僅か、得点僅差の時に**悪質な違反行為**と判断した場合は赤旗から上げてよい）
【トラップ・スローイン時のレシーバーに対するオフボールダブル等】
“JBA「マンツーマンコミッショナー設置および競技会運用について」に記載”

※旗は事象の起こっていることを確認後、速やかに上げてください。

事象が終息してから旗を上げるとベンチが迷うので、

“事象が起こった→確認→旗を上げる

終息した→旗を降ろす”

旗の振り方をはっきりしましょう。

※低学年でプレーが明らかに未熟である、試合の得点差が大きい等の場合は裁量をもって接してあげましょう。

※**黄色の旗はあくまで注意を促す旗であり、上げた回数で赤旗にしないといけないわけではありません。**違反を取り締まることでもありません。

また「**黄色旗2回あげてから赤旗をあげる**」という認識を持たれている方忘れてください！！

※**黄色旗での説明責任はありません。**コーチ、アシスタントのベンチの方が気づいて改善を促して下さい。

（ベンチサイドから聞かれた場合はMC業務に影響ない範囲で伝えてください）

※事象を正しく判断するために、捉えやすい位置へ動いてください。

（審判と同様に視野の確保を行ってください）

MCは基本的にオポジットサイドで行ってください。

マッチアップ

すべてのディフェンスプレーヤーはオフenseプレーヤーの誰とマッチアップしているか**明確**でなければならない。

※マッチアップエリアは3ポイントラインをない場合は目安とする。

（手のサイン等があっても「**明確に**」という文言が当てはまらない場合、MCが「マンツーマンをしていない」と判断する場合がある。）

ヤーを意識しながらマークしなければなりません。

手のサイン（指差し）声のサイン、体の向きが**明確に誰とマッチアップ**しているかがわかることがポイントになります。

例3 ボールマンがドライブし、ディフェンス側の選手がそれをとめてオフenseがコントロールやり直した（オフenseが立て直そうと広がった）時、ディフェンスプレーヤーは**明確にマッチアップ**をしなければならない。

（ゴールを守ろうとゴール下で待ち構えたりすれば旗が上がる対象となる。）

※ヘルプローテーション後も全てのディフェンスプレーヤーは直ちに**マッチアップ**しなければならない。

特例

トラップ

ボールを保持している選手をトラップすることは許される。但しトラップ後は直ちに**マッチアップ**を**明確に**しなければならない。また**マッチアップが明確**であればローテーションが許される

※トラップを行うには、

①ドリブルが行われている時、または終わった時

②パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時

③移動が容易に行える距離にある時

（自分のマークマンとボールマンの距離が2~3m）=オフense同士の距離が2~3m
（どちらかはボールマン）

※ボールを保持していない選手へのトラップ（ダブルチーム等）は禁止です。

例1 トラップを行ったプレーヤーがトラップ失敗後、自分のマークマンを**明確にせず連続トラップ**を行った場合旗が上がる対象となる。

（トラップ後は**明確にマッチアップ**すること）

例2 ボールマンへトラップした際に、他のディフェンス選手が自分のマークマンを**意識せずに**ボールカットをしようと明らかに行った場合は旗が上がる対象となる

例3 オフenseがシザースをした時、オフense同士の距離が近い**ため**ボールマンへのトラップをしかけるのはOKとなる。

（移動が容易に行える距離であるのならば、ドリブル行われる前でもトラップはOKとなる）

制限区域内のトラップ

サイドボール、エンドボールのスローイン時にのみ、スローインするプレーヤーに**マッチアップ**するディフェンスプレーヤーが1.5m以内の**マッチアップ**する距離制限を超えて制限区域内

のオフボールプレーヤーをトラップすることは許される。

アイソレーション

オフenseが明らかなアイソレーションの時は、オフボールディフェンスの選手は常に移動しなければいけない、ではない！！

※ミドルラインの定義は適用される。

総括

ボールコントロール時全てのディフェンスは明確にマッチアップをしなければならない。
スイッチ、トラップ、ヘルプローテーション後も同様に明確にマッチアップをする。

MCは違反を取り締まるものではないのという理解を大事にしてください。試合をするのは選手であり子供たちです。

選手がマンツーマンできていないのは指導者の責任であることを認識しておいてください。
旗が上がろうとも選手の責任にするのはやめましょう

特に誰とマッチアップしているかがポイントになります。

この明確性がなければ旗が上がります。マッチアップの理解、認識をして行きましょう。